



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(令和元年)10月5日号 No.1805

目次

■ 2020～2022年のロシア連邦予算と経済見通し	1
■ 統計速報	3
2019年1～8月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／3	
2019年1～8月の日ロ貿易／4	
■ エトセトラ	5
日本-ロシア・ピッチセッション@CEATECのご案内／5	
■ トピックス	6
ヤマルLNG向け新造LNG船が竣工／6	
商船三井がLNG積替基地案件で覚書／6	
モンゴルで新素材製造、開発庁と基本合意／6	

2020～2022年のロシア連邦予算と経済見通し

はじめに

ロシア連邦政府は9月30日付で、2020年の連邦予算と2021～2022年の予算計画の草案を承認し、連邦議会の下院に提出した(ロシアの連邦予算は3ヵ年単位で策定される)。与党が安定多数を握っている議会の勢力図からして、この予算案がほぼそのまま成立すると考えられる。また、予算案の策定に当たっては、その前提となる2020～2022年のGDPをはじめとする主要指標の予測値も示された。予算案とそれに付随する経済見通しは、ロシアにおける今後3年間の政策運営の根幹となるものなので、今回の速報では予算および経済見通しを表にまとめて紹介することにする。情報の出所は以下のとおりである。

予算案 <http://government.ru/activities/selection/301/37980/>

経済見通し <https://www.kommersant.ru/doc/4104291>

石油価格が一頃よりは持ち直したため、表に見るとおり、現状でロシアの連邦財政は黒字となっている。2020～2022年にも黒字は維持されるが、「ナショナルプロジェクト」への支出増もあり、黒字幅は徐々に縮小していくという見通しである。

予算の前提となっている経済指標を見ると、石油・ガスの輸出価格については慎重な予測となっている一方、経済成長率については2021年以降3%を上回るという楽観的な見方が示されている。